

久喜市とローズバーグ市の交流のあゆみ

昭和61年9月

ジョセフレイン中学校の先生から、子どもたちの友好を深めるため、生徒を菖蒲へ派遣したい旨の提案が出される

平成5年10月18日

旧菖蒲町とローズバーグ市との姉妹都市提携に関する協定書の調印式が行われる



◀姉妹都市提携5周年を記念して寄贈した母子馬

平成27年8月2日

久喜市とローズバーグ市との姉妹都市提携に関する協定書の調印式が行われる



▲協定書

昭和60年

教育視察のため訪日していたローズバーグ市内の小学校教諭が菖蒲中学校を訪問したことをきっかけに、双方の中学生により手紙や絵の交換を開始

昭和62年6月8日

第1回目の受け入れ。生徒13人、引率教員2人の15人が初めて菖蒲町を訪問

平成15年

旧菖蒲町との姉妹都市協定10周年記念樹として、桜とマートルを交換。あやめ公園にマートルを、ローズバーグ市に桜を植樹



▲あやめ公園のマートル

現在までに360人の
中学生を派遣

中学生の派遣までの流れ

- 4月中旬 各学校を通じて派遣者の募集をします
- 5月上旬 募集締め切り
- 5月下旬 抽選会を行い、派遣者を決定します
- 6月上旬 学習会（1回目）
- 7月上旬 学習会（2回目）
- 7月下旬 11日間の派遣

※受け入れの場合もほぼ同様の日程です。

- ・原則、派遣した翌年には受け入れをお願いします。
- ・派遣する前に受け入れをした場合、翌年は優先的に派遣されます。

現在には派遣・受入といった人の交流が主となっていますが、今後はお互いの市の産業や文化、特産品を生かした、発展的な交流に進むことを期待しています。

もう一つの特徴として、隔年で派遣と受け入れを行っており、派遣された中学生は、翌年受け入れてくれた家庭の中学生を日本で受け入れることとなります。単に「海外に行っただけで終わらないことが、長年継続して交流が続いている秘訣でもあると思います。

生活することで、全員が必ず一回り大きく成長して帰ってきます。

この交流の特徴は、ホテルに泊まるのではなくホームステイをすること。基本的には1人で現地の家庭に入ります。日本を離れるまではコミュニケーションが取れるのか心配する人も多いですが、いざローズバーグでの生活が始まると身振り手振りも使いながらコミュニケーションを取れるようになっていきます。ステイ先の家族と10日間一緒に生活すること、全員が必ず一回り大きく成長して帰ってきます。

昭和62年に始まったローズバーグ市との中学生の交流は32年が経過し、これまで360人の中学生をローズバーグ市へ派遣してきました。



平澤 香 さん

久喜市・ローズバーグ協会会長
平成国際大学 特任教授